

全国和牛能力共進会北海道大会に向けた戦略会議次第

日時:令和4年10月27日(木)11時40分から

場所:鳥取県立図書館2階 大研修室

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 報告事項

(2) 意見交換

4 その他

5 閉会

【配布資料】

配席図、出席者名簿

資料1 過去5回の全国和牛能力共進会における鳥取県の成績について・・・1

資料2 第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会出品者意見・・・2

資料3 選畜委員会による全国和牛能力共進会鹿児島大会の考察・・・3

資料4 全国和牛能力共進会北海道大会に向けた対策(案)・・・4

全国和牛能力共進会北海道大会に向けた戦略会議
出席者名簿

令和4年10月27日

	所 属	氏 名
	鳥取県知事	ひらい しんじ 平井 伸治
1	第12回全国和牛能力共進会鳥取県推進委員会会長	くりはら たかまさ 栗原 隆政
2	第12回全国和牛能力共進会鳥取県出品対策部会会長	こばやし かつし 小林 勝志
3	第12回全国和牛能力共進会鳥取県選手団団長	みやざき ひろき 宮崎 浩樹
4	第12回全国和牛能力共進会鳥取県出品者代表	きしま やすひろ 木嶋 泰洋
5	第12回全国和牛能力共進会鳥取県出品者代表	きしもと まさひろ 岸本 真広

事務局

	所 属	氏 名
1	鳥取県農林水産部長	にしお ひろゆき 西尾 博之
2	鳥取県農林水産部畜産振興局長	おかがき としお 岡垣 敏生
3	鳥取県農林水産部畜産振興局畜産課長	たなか なるひこ 田中 成彦

過去5回の全国和牛能力共進会における鳥取県の成績について

- 鹿児島全共の種牛区では、6つの区のうち5つの区で優等賞を獲得し、このうち1区、4区、5区の3つの区では、前回宮城全共を上回る成績
- 肉牛区では、今回新設された7区(脂肪の質評価群)で優等6席となったものの、前回宮城全共で肉牛群1位を獲得した6区(総合評価群)では11位、総合で優等賞10席(前回は優等賞2席)
- 平成14年岐阜全共からの鳥取県の成績の推移を見ると、鳥取県の成績は確実に上昇、土台のレベルはアップ

【鳥取県の成績(岐阜全共(H14)～鹿児島全共(R4))】

出品区	R4 鹿児島	上位成績	H29 宮城	H24 長崎	H19 鳥取	H14 岐阜	
種牛の部	1区 (若雄)	優等賞4席 (4/21)	首席 鹿児島 2席 大分 3席 岩手	1等賞4席 (19/22)	優等賞9席 (9/20)	優等賞6席 (6/21) 優等賞13席 (13/21)	優等賞3席 (3/14) 1等賞1席 (9/11)
	2区 (若雌の1)	1等賞1席 (18/33)	首席 大分 2席 宮崎 3席 鹿児島	優等賞9席 (9/33)	優等賞10席 (10/33)	優等賞4席 (4/33)	優等賞17席 (17/32)
	3区 (若雌の2)	優等賞9席 (9/32)	首席 宮崎 2席 鹿児島 3席 宮崎	優等賞8席 (8/32)	1等賞7席 (24/33)	優等賞7席 (7/32)	優等賞12席 (12/30)
	4区 (繁殖雌牛群)	優等賞5席 (5/18)	首席 鹿児島 2席 宮崎 3席 北海道	優等賞8席 (8/18)	優等賞4席 (4/15)	1等賞5席 (15/17)	1等賞3席 (11/16)
	5区 (高等登録群)	優等賞5席 (5/16)	首席 鹿児島 2席 宮崎 3席 北海道	優等賞7席 (7/17)	優等賞3席 (3/17)	優等賞3席 (3/17)	1等賞3席 (10/12)
肉牛の部	6区 (総合評価群)	優等賞10席 (10/15) 種牛群7位 肉牛群11位	首席 鹿児島 2席 宮崎 3席 島根 種牛群 1位 宮崎 2位 鹿児島 3位 兵庫 肉牛群 1位 島根 2位 鹿児島 3位 岐阜	優等賞2席 (2/16) 種牛群5位 肉牛群1位	2等賞1席 (12/14) 種牛群11位 肉牛群11位	1等賞5席 (12/14) 種牛群×位 肉牛群11位	1等賞3席 (10/12) 種牛群×位 肉牛群6位
	7区 (脂肪の質評価群)	優等賞6席 (6/21)	首席 宮崎 2席 島根 3席 広島				
	若雄後代検定牛群 (鹿児島全共では中止)			1等賞2席 (13/19)	1等賞4席 (12/19)	1等賞6席 (15/21)	1等賞4席 (12/17)
	8区 (去勢肥育牛)	2等賞 (47-58/58)	首席 鹿児島 2席 島根 3席 岐阜	優等賞17席 (17/78) 2等賞 (63/78)	2等賞 (61/76) 優等賞6席 (6/76)	1等賞 (31/74) 2等賞 (61/74)	1等賞 (23/33)
特別区	優等賞8席 (8/24)	首席 鹿児島 2席 宮崎 3席 岩手					

※鹿児島全共出品区に合わせて、鳥取県の成績を記載(カッコ内は順位/出品頭数(または出品群))

第 1 2 回全国和牛能力共進会鹿児島大会出品者意見

種牛区

- 全共に取り組む人と候補牛を増やし、多くの中から選ぶことできる形にして欲しい
- 県の全面的なバックアップや若い技術員（出品者のサポート等を行う農協職員）を全共に同行させたことは今後のために良かった。今後は先進地視察等でより一層技術員のレベルを上げてほしい
- 毎年開催される県畜産共進会を盛り上げ、毎年が全共本番という位置づけで取り組んでもらいたい

肉牛区

- 選畜技術の精度をあげる。超音波肉質診断だけでなく、子牛からの状況など多数項目を総合的に判断する仕組みが必要
- MUF Aを向上させるエサや添加剤の開発とMUF A予測手法の更なる向上
- 受精卵での生産では、受胎率が低いことや雌牛が生まれるため候補牛頭数が思ったよりも多くない。たくさんの候補牛を生産できるような形を希望

【出品者の意見】

区	出品者	出品区	良かった点	悪かった点	改善点
種牛区	田中裕之	第2区 第6区	・若い技術員を全共に同行の取組は良かった	・全共に取り組む人が少ない	・輸送中に牛が痛まない対策 ・体型の良い種雄牛の造成（大山雲、登鵬1の種牛区での使い方）
	宮崎弘樹	第3区 第6区	・若い技術員を全共に同行の取組は良かった	・全共時のみの取組となっている	・若い技術員のさらなるレベルアップ ・県共進会を盛り上げるなど日頃から日本一の努力と準備が必要
	木嶋泰洋	第4区 第5区 第6区	・県の支援は良かった。	・技術レベルの更なる向上	・技術員のレベルを上げること ・取り組む人と候補牛を増やす ・全国和牛登録協会との更なる連携を望む
	木嶋真理子	第4区	・普及所、家保、農協の支援	・全共期間中の人的支援	・農繁期や全共期間中の人的支援が欲しい ・全共に取組しやすい環境を作ること ・若手の参加者を増やすこと
	小谷茂	第4区	・栄養度管理	・出品候補牛が少なすぎた	・他地区の農家も参加しやすくする ・出品希望頭数を増やす ・全共に熱意のある人が必要 ・4区の牛も計画的に今から作ること
	渡邊貞男	第5区	・特になし	・他の全共出品者や関係者との交流がなかった	・鳥取県代表者・関係者の情報交換や交流を積極的に行う
	山形俊樹	第6区	・普及所や農協の支援	・特になし	・全共用訓練等と農繁期が重なるので人的支援体制を充実して欲しい。
肉牛区	谷口拓也	第6区	・候補牛となる受精卵確保ができたこと	・受精卵以外の対象頭数の増加	・候補子牛の頭数を増やすこと
	津村将彦	第6区	・特になし	・特定の母牛での牛しきいかなかった	・候補牛と出品者の数を増やすこと ・良い素牛を期待できる農家に渡すこと ・超音波だけでなく別の選抜基準も必要
	前田皓	第6区 第7区	・自分が目指したBMS12は出せた	・MUF A予測値が外れた牛がいた	・次の種雄牛候補牛の早期決定 ・MUF Aを上げる技術と血統構成 ・選抜技術の向上 ・候補子牛の頭数を増やすこと ・子牛～選抜までの状況を含めた総合的な選抜手法を開発すること
	岸本真広	第7区	・MUF Aを上げるエサが良かった	・受精卵は、仮腹の確保が難しい	・MUF Aを上げるための統一したエサや添加剤の開発
	鳥飼雄太郎	第7区	・1頭飼いによるアタリの回避	・夏場のエサ食いが悪くなった	・受精卵の受胎率の改善 ・候補牛頭数を増やして欲しい ・MUF A向上のための添加剤の開発
	菊丸ファーム	第8区	・全国のレベルが感じられた	・超音波肉質診断の技術	・MUF A向上のエサの統一 ・超音波肉質診断技術の精度 ・参加農家を増やすこと

選畜委員会による全国和牛能力共進会鹿児島大会の考察

【種牛区】

- 目標達成はできなかったが健闘し高評価を得ることができた。今後、優等賞3席以内に入るためには出品候補者、出品候補牛を増やすことによる競争を促すこと及び技術員のレベルアップが必要
 - ※ 取組農家数が大会ごとに減少。盛り上げるため取組農家数を増やすための対策が必要
→ 県畜産共進会を全共の前哨戦の形をとることで盛り上げる
 - ※ 出品候補牛数が少なく、より良いものを選べない
→ 地域単位ではなく、全県域からの選抜を考慮すること
 - ※ 技術員は鹿児島、宮崎の技術レベルに近いものが欲しい
→ 先進県への視察研修を継続実施

【肉牛区】

- 選抜基準の適切な設定（例えば、MUF A 3頭とも60%以上といったもの）ができていれば6区、7区は上位入賞が可能であった。今後は「選抜基準の数値化」を行うことと年次毎に目標とする「選抜技術」を設定し管理する必要あり
 - ※ 宮城全共までは、「(良くても悪くても) この牛(群) しかない」という出品。今回は「どれを選ぶか」というほど県内のレベルはアップしたと実感。ただ、選抜基準は全共の審査基準という前回と同じ曖昧な基準を設定
 - ※ 超音波肉質診断的中率を80%から更に上げるなどの既存技術の精度を上げる
→ 研修等の実施。鳥取大学と連携したAI技術の活用
 - ※ 体型、飼養管理、血液検査やDNAデータ等から判定する総合的な枝肉予想技術を確立
→ 他研究機関等との共同研究等
 - ※ 高能力候補牛頭数を更に増やす必要
→ 受精卵移植の受胎率向上のための技術開発
 - ※ MUF A向上のためのエサや添加剤の試験が不十分
→ 畜産試験場及び農家現場での飼養管理試験の実施

【全共取組および結果】

	項目	鹿児島全共で取組内容	結果
種牛区	技術員の養成	鹿児島から講師を招き、毛刈り技術、牛の調教技術を習得。8人の技術員を養成（JAいなば2名、JA中央2名、JA西部2名、全農とっとり2名）	・鹿児島会場でも技術員を中心に調教等のメニューをこなし、最も良い牛の状態に仕上げる事ができた ・コロナ禍により外部招聘が2年しかできなかった
	候補牛の作出	第6区で指定交配を実施。 交配雌牛（82点以上、体高・体長1.0σ以上） 交配頭数74頭（受精卵9、雌精液11、通常精液54） 受胎頭数52頭（受精卵5、雌精液7、通常精液40） 雌牛頭数22頭（受精卵1、雌精液7、通常精液14）	指定交配により22頭（交配の約30%）の牛しか候補牛を確保できず
	候補者数	第1次審査時出品者数 JAいなば0名、JA中央7名、JA西部11名	JAいなばからは予選からも出品なし。JA中央も前回よりも減少
肉牛区	候補牛の作出	雌牛は産子実績およびゲノム育種価で選定 交配頭数255頭（雄受精卵55、通常受精卵162、通常精液38） 受胎頭数108頭（雄受精卵16、通常受精卵68、通常精液24） 雄牛頭数59頭（雄受精卵13、通常受精卵35、通常精液11） ※最終的には、一般セリに出てくる牛も加え67頭（元花江（第6区25頭、第8区6頭）、白鵬85の3（第7区24頭）、隆福也（第8区12頭）	生産された高能力雄牛頭数は過去の全共の中で最多であったが、生産率は23%と低く、特に超高能力雌牛からの生産が少ないなど、技術的な課題が多かった
	選畜方法	計6回の農家巡回調査結果、超音波肉質診断結果等をもとに、全共審査基準により選畜。 ※MUF A数値を過去大会から平均60%越で首席可能と推測。そのため、出品候補牛のMUF A予測値を算出し、平均が60%となるように出品牛を選抜 ※BMS予測値、歩留予測値は超音波肉質診断（エコー）により推測（エコーによる予測精度は約80%）	7区：宮崎県がMUF A 3頭平均63%。鳥取は予測値60%（実際58%）で1頭予測値が大きく外れた 6区：エコーのBMS予測値が大きく外れた牛がいた。（出品できなかった7頭はおそらく5等級は確実）

全国和牛能力共進会北海道大会に向けた対策（案）

- 早期に全国和牛能力共進会北海道大会の目標設定し、目標を達成するための技術開発と候補牛作出等に係る重要事項のKPIを設定。ライバル県等の動向も注視しながら確実に「肉質日本一」を奪還するKPIを年次ごとに進捗管理
 - ・技術開発等を進めるため畜産試験場に経験がある中堅・ベテランを重点配置
 - ・KPIは全共出品対策部会で設定し、全共事務局（県と畜産推進機構）で進捗管理
 - ・全国和牛登録協会と次回開催県の北海道との連絡調整人員を畜産課に配置
- ※ 特に早期に交配種雄牛を決める必要がある6区（総合評価群）と7区（脂肪の質評価群）は、第6区は体型（発育良好等）と肉質を兼ね備えたもの、第7区は脂肪の質（MUFA）の高い交配種雄牛が必要。畜産試験場がけい養している種雄牛等の中では、現場後代検定試験で歩留及び脂肪交雑の能力が県内歴代1位の「菊花久」、体型及び脂肪交雑能力が高い「智頭白鵬」が最有力候補。その他、鹿児島全共第1区で優等賞4席を獲得した「登鵬1」も有力

1 目標設定とKPI

(1) 目標（案）

前回と同様の「6区（総合評価群）、7区（脂肪の質評価群）で首席を獲得し、名誉賞を目指す。群出品区は優等賞3席以内、単品区は優等賞6席以内を目指す」

(2) KPI

今後開催予定の第13回全国和牛能力共進会鳥取県出品対策部会等で速やかに設定する

【KPIの例】

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
候補牛選抜	高能力雌牛 50頭選抜	選抜した雌牛から受 精卵100ヶ取得	高能力雌牛10頭を使い 選抜、受精卵40ヶ取得	受精卵移植で70 頭候補牛を生産	70頭の候補牛 を35頭に絞る	35頭から出品 牛を選抜

2 第13回全共北海道大会肉牛区に出品可能な種雄牛および種雄候補牛

肉牛区の交配する時期(R6.11～)よりも前に後代検定が終了予定の種雄候補牛を対象とした。

区分	名号	生年月日	父	出品の可否		本牛 発育	登録 点数	本牛ゲノムBV				検定終了予定	備考
				6, 8区	7区			枝肉重量	歩留	脂肪交雑	MUFA		
種雄牛	隆福也	H25.7.20	隆之国	×	○	+0.7	82.5	C	C	B	C		
	元花江	H25.8.17	安福久	×	○	-0.9	80.8	C	A	A	B		
	美国白清	H26.11.29	美国桜	×	○	+1.1	80	C	H	H	B		産子が小さい
	大山雲	H27.5.11	山根雲	×	○	+1.9	86	B	C	B	C		歩留悪い
	百合鵬2	H27.9.4	白鵬85の3	○	○	+0.1	83.8	A	B	H	C		歩留悪い
	菊花久	H29.7.12	秀菊安	○	○	+0.03	80.7	C	A	H	C		歩留及び脂肪交雑能力は県内トップ。ただしやや小柄
後代検定中	百合85の3	H28.11.29	百合白清2	○	○	+1.2	80.8	C	B	B	B	R5年5月	
	智頭白鵬	H29.12.8	白鵬85の3	○	○	+0.3	82.1	B	H	H	A	R5年7月	肉質・体型良い。白鵬85の3母体には交配不可
	久福也	H29.11.15	安福久	○	○	+0.6	82.5	C	A	A	C	R5年7月	
	白弓6	H30.3.13	白鵬85の3	○	○	-0.9	81.1	B	A	H	C	R5年11月	
	美照清	H30.3.29	美津照重	○	○	+1.3	82.4	C	B	A	B	R6年2月	発育良好。生産者注目牛。ただしやや小柄
	花国茂忠	H30.7.3	第1花国	○	○	+1.3	82.9	B	B	A	A	R6年5月	発育良好。体型良い
	登鵬1	R2.11.12	白鵬85の3	○	○	+1.7		A	B	B	H		発育良好。体型良い

※種雄牛の出品可否は、第13回全共を令和9年9月開催として、第12回全共の種雄牛生年月日の出品条件を基に算出
本牛発育は、直接検定終了時の発育